



この町で素敵な「<sup>ミライ</sup>未来」を描く方をご紹介します。



## しらたかマルチワーク事業協同組合

うちうみ  
わたる  
内海 航さん (荒砥甲在住)

時期ごとに変化するニーズに応え、  
任された仕事に精一杯向き合う。



今回ご紹介するのは、一昨年の9月より、しらたかマルチワーク事業協同組合でマルチワーカーとして働いている内海さんです。

内海さんは、北海道の出身。山形大学を卒業後は、実家に戻り家業である酪農業に従事していましたが、ある日、白鷹町に住む大学の知人から「これからシェアハウスをするから、こっちに来ないか」と誘いがあり移住を決意。そのシェアハウスに、しらたかマルチワーク事業協同組合の方がいたことがきっかけとなり、現在に至ります。

マルチワーカーとは、季節や曜日、時間帯によって複数の事業所で異なる業種の仕事を掛け持ちで行うのが特徴です。内海さんの場合は、主に夏場は農業、冬場は工場勤務という流れで、1カ月の間に複数の事業所を回ることもあるそうです。「それぞれの業種で繁忙期があり、それは季節ごとや曜日ごとに変わります。繁忙期となれば、どこも人手不足に悩んでいるのが現状です。行く先々で『助かるよ』という声をかけてくだ

それぞれの仕事で  
どうやって効率化を図るか  
考えることも楽しいです。



さり、人手不足解消に貢献できていることがとてもやりがいにつながっています」と語る内海さん。また、この町での暮らしにとっても満足していると話します。「大学時代の友人とは、今も親交が続いており、その仲間とバンドを組んだりもしています。意外と音楽活動をしている人が周りに多くいることを知り、プライベートでもこの町の良さを感じています。今後は、ローカルの魅力をも目を向けて、白鷹町の魅力を仕事やプライベートを通して、自分なりに発信していきたいです」と語りながら、この町にある魅力をもっと発見していきたいと、期待に胸を膨らませていました。